

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター にじいろキッズらいふ		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 46人	(回答者数) 18人	
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4人	(回答者数) 4人	
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 46人	(回答者数) 27人	
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの事をしっかりと理解し、発達や特性等を踏まえた上で、専門的な根拠のある訪問支援を提供しています。	こどもたちの発達や特性を理解するための研修や、訪問支援にあたる姿勢等話し合いを重ねるなど資質向上に努めています。児童発達を使っている子供の場合は、療育の担任とも連携を密にし、多面的に子供たちを把握するよう努めています。	引き続き、訪問支援員の資質向上に努めます。研修や、話し合いの場の確保に努めます。
2	訪問支援員は専門的な知識を持ち、支援の必要なことの見方、対応をわかりやすく伝えられています。また、ポジティブで明るい支援方法の提案となっています。	各関係機関との連携を大切にしています。また、先生方の保育や教育への思いをしっかりと把握し理解する事に努めています。そのクラス、その先生が取り入れやすい方法の提案を心掛けています。	保育所等訪問支援ガイドラインをもとに勉強会や研修をしたり、多法人や他事業所に保育所等訪問支援との情報交換を行っていききたいと思います。
3	こどもの状況を保護者に伝え、こどもの健康や発達の状況、課題について伝える事ができています。	集団の中でのこどもの様子などを丁寧に伝えしています。ご家族が訪問支援員に相談したい時や、こどもの様子を共有したいときにしやすいように、電話や対面だけでなく、メールでの共有も可能にしています。	引き続き、こどもや保護者のニーズに寄り添いながら、しっかりと思いをお聞きする用心がけます。保護者の方が共有しやすいよう、伝え方の幅を広げられるようICTを活用するなど検討します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問先、保護者の方からのアンケート回収率が半数程度となっており、皆様からのご意見ご要望を出しやすい工夫が必要と考えます。	昨年までは、訪問施設へのアンケートは、紙ベースで実施していました。今年度は、Googleフォームをメールで送らせていただいたことにより、メールに気づかなかったというお声を複数いただいております。	アンケート依頼の仕方を検討し、沢山の方のご意見やご要望をお伺いし、サービス向上に努めてまいります。
2	保護者の満足度に比べ、訪問先への『保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されたか』、『サービスに満足したか』の設問に対し、2～3割『わからない』『いいえ』がの回答でした。	訪問先の担当の先生方には、にじいろキッズらいふでの取り組みも併せてお伝えさせていただいていますが、取り組みへの提案の根拠などをもっと丁寧にわかりやすくお伝えすることが必要と感じます。	定期的に入らせていただく訪問支援の強みを生かし、信頼関係構築をし、相談しやすい雰囲気づくりを心掛けたいと思います。また、困りごとが解決や解消されるまで一緒に考えられるような関係作りをします。
3	訪問の回数が多すぎるというご意見と、もう少し頻度を上げてほしいというご要望があります。お子様の状況や目的によって頻度は、会議の中で決めていきます。ご希望に添えない事もあります。	お子様の状態や、行事前などお子様の困るイレギュラーな場面などが多い時には、相談できることをしっかりと周知し、こどもも困らない、支援者も困らないよう訪問ペースは定期的に見直しが必要と考えます。	訪問を受け入れして下さっている園や学校の先生方と、一緒に支援について等の研修や情報交換会など検討し、より良い連携がしやすい体制づくりを検討したいと考えます。また、保育所等訪問支援のサービスについて知らない方が沢山いますので、丁寧な説明や、する機会を増やしていきたいと考えます。